

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	7.1%	15.5%	218.3%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・3期にわたるコレクション展及び移動美術館等を含め、399点の作品を展示することができた。 ・道内及び道外美術館で当館コレクションが活用される機会が多く、507点の貸出があった。 	<p>【成果】 コロナ禍の状況の中、感染症対策を講じながら、多数の所蔵品を活用することができた。</p> <p>【課題】 貸出先の展示環境について、適切かどうか事前の確認が必要な場合が生じた。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、作品の材質・技法に応じた適切な展示期間の設定や、貸出先の展示環境に注意することにより、活用と保存の両立に努めていく。 ・IPM(総合的有害生物管理)のいっそう効果的な実践をめざし、調査、環境保全に努めていく。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用								
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				c	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の害虫調査や清掃を定期的に行い、現状の把握と情報共有を行った。 ・彫刻2点、日本画3点、版画1点の修復を行った。 ・展示室の老朽化による施設設備等の不調が生じたが、迅速に修繕を行った。 	<p>【成果】 適切な環境の保持に努めた。</p> <p>【課題】 今後も施設設備等の不調が懸念される。</p>		
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	23,564人	27,648人	117.3%	c	・3期にわたる近美コレクション展では、北海道の美術、ガラス工芸、エコール・ド・パリという当館コレクションの強みを活かしながら、幅広く作品を紹介する企画を行った。	【成果】 名品・人気作品からこれまで展示機会の少なかった作品までを紹介し、来館者のニーズに応えた。また「アートギャラリー北海道」では、連携館と協力し、充実した展示内容にすることができた。 【課題】 令和5年度は、工事等のため、近美コレクションが短期間の開催となる。効果的な広報展開が必要。	B	・コレクションの調査研究を深めながら、当館の収集方針である「北海道の美術」「ガラス工芸」「エコール・ド・パリ」を幅広く紹介し、魅力ある近美コレクション展を目指す。 ・特別展については、国内外及びさまざまな時代・ジャンルの展覧会を開催し、道民の多岐にわたる期待に応えながら、美術及び美術館への興味関心を促す。
	常設展示観覧者の満足度	90.0%	87.9%	97.7%					
	常設展示のリピート率	72.5%	62.2%	85.8%					
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	376,374人	391,879人	104.1%	b	・「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」「古代エジプト展」「国宝・法隆寺展」など大規模展を開催することができた。メンテナンス工事のため、冬期に予定していた砂澤ビッキ展を展示室Aに変更。1階、2階を会場にできたことから、過去最大規模の出品内容となった。	【成果】 大型展に注目が集まり、観覧者数は前年と比べ大幅に増加した。北海道初公開の作品も多く、アンケートでは総じて高い評価が寄せられた。 【課題】 大型展だけでなく、開催意義の高い中小規模展も引き続き開催する必要がある。		
	特別展示観覧者の満足度	93.3%	88.5%	94.9%					
	特別展示のリピート率	73.9%	72.1%	97.6%					
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	・常設展において、英文による作家解説シートを配布した。 ・HPやSNS、動画を活用し、細やかな情報提供と魅力発信を行った。	【成果】 展示室の混雑状況などについて、細やかに情報提供を行うことができた。 【課題】 各種のSNSの特性に即した、より効果的な発信のあり方を検討する。		
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	・砂澤ビッキ展では未公開の作品を紹介し、ビッキ芸術の新たな一面を見せた。	【成果】 吉川霊華、砂澤ビッキなど、継続的な調査研究により、新たな面を紹介することができた。 【課題】 新収蔵品や数年にわたる収蔵が完了した友田コレクションについて、今後も継続的に調査研究し、魅力ある展示につなげる。		
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	96.0%	95.7%	99.7%	b	・「ヨーロッパ近代美術の名品」と題して、標茶町で移動美術館を実施した。	【成果】標茶町での移動美術館は、幅広い層の来場者を集め好評だった。 【課題】移動美術館は、全道を圏域とする事業であることから、道立美術館全体(道教委)として今後のあり方を検討する必要がある。		
	その他の館外展示の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	34回	70回	205.9%	a	<p>・各展覧会毎に解説等の関連事業を充実させた。また本年度は視覚支援学校と協働してラーニング・プログラムを実施し、障害のある生徒に美術の鑑賞と制作の機会を提供した。</p> <p>・札幌国際芸術祭(SIAF)実行委員会や解説ボランティアとの協働により、聴覚障害者のための鑑賞プログラムを実施した。</p>	<p>【成果】 新型コロナウイルス対策の情勢が一段落したことにより、対面形式の事業参加者数が回復した。内容の充実とあいまって高い達成率となった。</p> <p>【課題】 コロナ禍での経験をもとにDXを推進し、時間、場所、参加形態に左右されない事業も導入する必要がある。</p>	B	<p>【教育普及事業】 対面形式の事業とともにオンラインによる音声ガイドや動画ガイド等のプログラムを充実させていく。</p> <p>【美術情報提供】 図書の充実、映像プログラムの更新など、利用者の利便性を高める。</p>
	教育普及プログラムの参加者数	1,690人	3,350人	198.2%					
	教育普及プログラムの満足度	99.3%	100.0%	100.7%					
	教育普及事業の状況								
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	10,367人	7,986人	77.0%	b	<p>・特別展やAGHの広報のため、HPおよびSNSによる情報発信の充実をはかった。特にイベント等の情報をSNSから得る層が増加傾向にあるという分析から、SNSを積極的に活用した。</p>	<p>【成果】 SNSの投稿記事はHPへの導入口ともなる。積極的な投稿がHPのアクセス数を高水準で維持できている要因と考えられる。</p> <p>【課題】 ARSコーナーについては利用者が減少傾向にある。</p>	B	<p>【美術情報提供】 図書の充実、映像プログラムの更新など、利用者の利便性を高める。</p>
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	69.2%	58.6%	84.7%					
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持								
	HPアクセス件数	1,063,835件	977,098件	91.8%					
	メールマガジン等発行回数	-							
	ソーシャルメディアの投稿数	191回	255回	133.5%					
	情報発信の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	取組状況	成果・課題	基本的 運営方針 の評価	今後の対応
調査・研究の 充実度	学芸員による調査報告				b	<p>・研究紀要は北海道美術などに関する計5件の論考を掲載して刊行。また、「羽生輝展」図録、『砂澤ビッキ作品集』については、執筆・編集を担当学芸員が行った。</p> <p>・館蔵の映像や音声ソフトについて、アーカイブ化の方針を立て、デジタル化や整理等の作業を継続して行っている。また、砂澤ビッキ展の調査において、生前に収録された映像を20本デジタル化し、資料として登録した。</p>	<p>【成果】 コレクションの各分野や展覧会等に関する調査研究及び各学芸員の研究課題や関連分野の調査研究を継続的に進めている。研究成果は展覧会企画、各種解説執筆、新聞・雑誌への寄稿、館内外における講座・解説、ミュージアム・トークでの発表とともに、専門的な照会への対応等によって社会に還元した。</p> <p>【課題】 二次資料について、保管、配架スペースを確保しながら、整理を進める必要がある。</p>	B	作家作品の調査研究のほかリニューアルをみすえて、美術館活動のあり方についても情報収集を進めていく。
	二次資料の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的 運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	1,783人	1,789人	100.3%	a	<ul style="list-style-type: none"> ・美術講座、美術講座プレミアムなどのボランティア団体の主催事業に対し、講師の派遣および助言等を行った。 ・オリジナルグッズ開発のため、必要な情報を提供した。 ・SIAFと連携し、教育普及活動を行った。 ・アートギャラリー北海道の連携館について、ロビー展示やSNSなどで情報発信を行った。 	<p>【成果】</p> <p>本年度は展示室Aで特別展を2度開催したことによりギャラリー・ツアーの回数は減少したが、新型コロナウイルス対策の緩和にともない参加人数は昨年度の1004人から1440人へと増加した。</p> <p>【課題】</p> <p>ボランティア希望者の減少や高齢化等、ボランティア団体が抱える問題についての現状把握が十分ではない。</p>	B	<p>【関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体が抱える問題について、懇談の場を設けて現状を把握し、助言と協力を行う。 ・道内美術館、他の機関や企業などと連携した展覧会の実施や環境への配慮の向上に取り組む。また、道内美術館のネットワークの強化を図るとともに、様々な協力などを行う。 <p>【学校との連携】</p> <p>プログラムの充実を図る。実施に際しては、児童生徒との双方向的なコミュニケーションができるよう、学校教員との綿密な打合せのもと、授業計画を作成する。</p>
	ボランティアが活動しやすい場の提供								
	地域と連携した取組の状況								
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	2校	1校	50.0%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで実施していた出張アート教室を、IT機器を活用して遠隔地の学校や特別支援学校等を対象にオンライン授業を行うオンライン・アート教室へと刷新し、6校258名を対象に実施した。 	<p>【成果】</p> <p>前年度の出張アート教室の実績が2校69名であったのに対し、実施校数、参加者数ともに大幅に増加した。作品の輸送を伴わない事業としたことで、より多くの要請に対応することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>オンライン・アート教室は実施対象となる管区が限られている等、オンライン化のメリットを十分に活かすことができていない。また、授業が一方通行になりがちであり、児童生徒とのコミュニケーションの面で内容改善の余地がある。</p>	B	<p>【関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体が抱える問題について、懇談の場を設けて現状を把握し、助言と協力を行う。 ・道内美術館、他の機関や企業などと連携した展覧会の実施や環境への配慮の向上に取り組む。また、道内美術館のネットワークの強化を図るとともに、様々な協力などを行う。 <p>【学校との連携】</p> <p>プログラムの充実を図る。実施に際しては、児童生徒との双方向的なコミュニケーションができるよう、学校教員との綿密な打合せのもと、授業計画を作成する。</p>
	出張アート教室の延べ参加者数	127人	258人	203.1%					
	指導者研修の延べ参加者数	3人	2人	66.7%					
	学校教育活動への対応数	19件	22件	115.8%					
	参加者・利用者満足度								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
附帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	62.9%	53.7%	85.4%	C	・カフェでは、当館、三岸美、知事公館の3館で実施する鑑賞事業参加者への料金割引チケット配付や、展覧会とのコラボレーションメニューの提供などサービス向上の取組を行った。 ・観光業者が企画する美術館めぐりツアーの受入れを行った。	【成果】 ・3館鑑賞事業参加者のアンケートにおいて、料金割引チケット配付は好評であり、事業の満足度向上につながった。 【課題】 ・カフェ利用者及びミュージアムショップ利用者の満足度の向上に向けた取組について検討が必要である。	C	・来館者へのホスピタリティ向上のため、来館者アンケートにおいて、より多くの方から意見を聴取できるよう、方法や内容を工夫する。 ・カフェやミュージアムショップが利用者にとってより魅力あるものとなるよう、事業者と協働した取組について検討・実施する。
	ミュージアムショップ利用者満足度	69.8%	66.7%	95.6%					
	事業者と協力してのサービス向上の実践								
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	82.9%	77.5%	93.5%	C	・職員とボランティアが展覧会ごとに学芸員のガイダンスを受け、理解を深めた上で、来館者の対応にあたった。 ・来館者アンケートの意見への対応や当館の考え方について、展覧会ごとに館内に掲示し、来館者に周知した。	【成果】 ・アンケートへの対応を掲示することなどにより、当館の考え方や取組への理解に繋がった。 【課題】 ・階段やロッカー等の場所の問合せが多いため、館内表示等の工夫が必要である。 ・キャッシュレスサービスの運用拡大について、関係者の理解・協力が得られるよう引き続き、課題の把握や働きかけが必要である。	C	・三岸好太郎美術館、知事公館を含むエリアを魅力ある空間としてより一層楽しんでもらえるよう、各館との連携事業や野外彫刻の適切な管理を行う。 ・誰もが利用しやすいよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れながら、館内表示等の工夫を行う。
	ホスピタリティ向上に向けた取組み								
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	79.1%	76.5%	96.7%	C	・前年度より計画していた大規模な設備更新工事(空調設備・電気設備)を実施した。 ・施設・設備について、日常の点検・補修に加えて施設課技術職員による点検を実施し、必要箇所について補修工事を実施した。 ・道路にせり出し、危険な樹木・枝の一部について、伐採を実施した。	【成果】 ・設備の更新や点検・修繕を行ったことにより、設備の不具合が減少した。 ・危険樹木等の一部伐採により、来館者はもとより地域住民の安全の確保につながった。 【課題】 ・引き続き、老朽化が進んでいる設備等の計画的な更新が必要である。 ・特に、前庭の危険樹木の伐採を速やかに実施する必要がある。	C	・来館者の利便性向上のため、関係機関や事業者と連携しながら、キャッシュレスサービスの運用拡大に向けた検討を行う。 ・来館者が安全・安心に過ごせるよう、施設・設備の点検を実施し、計画的な工事の実施に努めるほか、必要な補修を速やかに行う。
	施設安全性保持のための必要な措置								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E